

第5号様式（第7条関係）

会議録

開催日時	平成24年11月27日(火) 午後1時30分から午後3時00分
開催場所	清須市役所 本庁舎 3階 大会議室
会議概要	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 西枇杷島地区の保育ニーズへの対応について (2) 春日地区の保育園統廃合について 4 閉会
会議資料	会議次第 委員名簿 資料1：西枇杷島第2幼稚園PTA役員 話合い等の経過 ・別紙-1 清須市立第2幼稚園 保育園化計画に当たっての質問事項 ・別紙-2 清須市立第2幼稚園 保育園化計画に当たっての回答 ・別紙-3 清須市立第2幼稚園の保育所化に反対する意見書(写) 資料2：平成25年度西枇杷島保育園入所申込者に対する聞き取り結果 資料3：西枇杷島地区の保育ニーズへの対応に関する考え方について 資料4：幼稚園と保育園のクラス数想定 資料5：春日地区保育園統廃合に関する考え方について
傍聴人の数 (公開した場合)	4人
欠席委員	日下部委員、堀田委員、中田委員、内田委員
出席者 (市)	加藤市長、大鐘健康福祉部長、浅田学校教育課長
事務局	〔子育て支援課〕林課長、杉村主幹、伊藤副主幹、浅井係長
会議録署名委員	齊藤委員、塚本委員

1 開会

●浅井係長

皆様こんにちは。私は、本日の司会を務めさせていただきます子育て支援課の浅井です。よろしくお願ひいたします。開会に先立ちまして、本日の委員の出席状況について、ご報告させていただきます。会議次第を1枚おめくりいただき、名簿をご覧ください。本日は、日下部委員、堀田委員、中田委員、内田委員の4名の欠席であります。次世代育成支援対策行動計画策定委員会設置要綱の第6条第2項の規定により、本日は委員の過半数以上の方が、ご出席をいただいておりますので、会議は成立していることをご報告いたします。なお、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱では、附属機関等の会議及び会議録は、清須市情報公開条例の規定に基づき非公開という扱いをしているものを除き、原則公開することとなっています。非公開としている情報は、個人情報などですが、この会議では非公開とする情報は審議する予定はございません。従いまして、本委員会及び会議録は公開とさせていただきますので、よろしくお願ひします。なお、本日は、傍聴者の方がお見えになっております。傍聴者の方には、入場していただいておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは、ただ今から次世代育成支援対策行動計画策定委員会を開会いたします。開会にあたりまして、加藤市長からご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

●加藤市長

あらためまして、皆様こんにちは。今日は、それぞれお忙しいところ、次世代育成支援対策行動計画の委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。平素は、子育て支援を始め市の各方面において、お力添えをいただいている、この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。さて、子どもたちの保育環境を整備することも市にとって重要な施策であり、本年度は、朝日保育園の耐震工事に着手しており、現在は来年1月末の竣工に向けて、着々と工事を進めているところであります。本日は、議題として2点挙げさせていただいておりますが、一つ目は「西枇杷島地区の保育ニーズへの対応について」で、これは、先の7月に開催した当委員会においてご協議いただきました「西枇杷島第2幼稚園の保育化」のことについて、その後の経過やら、また現在の状況等を報告させていただいた上で、ご意見をお願いしたいと思っております。また、議題の2つ目としては「春日地区の保育園統廃合」についてであります。これは、平成21年に春日町は合併し、清須市となった訳でございますが、合併以降、数年経過しております、合併前からの懸案事項となっていたことについてご協議いただくことになっております。いずれにいたしましても、市にとって大変重要な事案につい

てご協議いただくことになっております。皆様方からは、忌憚のないご意見を頂戴し、市政に反映させてまいりたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願ひ申し上げまして、簡単ではございますが、開会にあたりひと言ご挨拶とさせていただきます。

●浅井係長

ありがとうございました。それでは、議事に入りたいと思います。議事進行につきましては、委員会設置要綱の第6条の規定により委員長が議長となることとなっておりますので、議事進行につきましては、建部委員長に議長をお願いします

●建部委員長

それでは、規定に基づき議事の進行を務めさせていただきますが、皆様方のご協力により、会議を円滑に進めたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。なお、会議録署名委員を齊藤委員、塚本委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。それでは、議事に入ります。なお、ご意見、ご質問につきましては、議事ごとにお受けしたいと思いますので、よろしくお願ひします。最初に、「西枇杷島地区の保育ニーズへの対応について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

●林課長

子育て支援課、林課長から議題(1)下記の資料説明。

資料1 西枇杷島第2幼稚園PTA役員 話合い等の経過

別紙-1 清須市立第2幼稚園 保育園化計画に当たっての質問事項

別紙-2 清須市立第2幼稚園 保育園化計画に当たっての回答

別紙-3 清須市立第2幼稚園の保育所化に反対する意見書（写）

資料2 平成25年度西枇杷島保育園入所申込者に対する聞き取り結果

資料3 西枇杷島地区の保育ニーズへの対応に関する考え方について

●浅田課長

学校教育課長、浅田課長から議題(1)下記の資料説明。

資料4 幼稚園と保育園のクラス数想定

●建部委員長

ただいま、議題(1)の「西枇杷島地区の保育ニーズへの対応について」事務局からご説明しましたが、ご意見、ご質問がありましたら、挙手をお願いします。

●荒川委員

資料3の最後の保育園化計画案の比較のところですが、案1にしても案2にし

ても、プール跡地を使うことは駅も近いし良いとは思います。それで、案2のプール跡地に保育園を新設し開園するというのは理解できるのですが、何故そこで、西枇杷島第2幼稚園を閉園することが前提となっていますか。理由は何でしようか。第2幼稚園を残すことは、全く考えていないとということなのでしょうか。

●林課長

市として、第2幼稚園を存続することを考えていなか、ということでございますが、清須市の子どもさんの数自体は、今後、横ばいから減少傾向と推測されると思っています。そのような中で西枇杷島地区については、公共施設のあり方基本方針、次世代育成行動計画、保育園・幼稚園整備ガイドラインで示させていただいたとおり、保育園をさらに増やすということではなく、幼稚園を保育園化し保育ニーズに対応するということから、西枇杷島第2幼稚園を廃止するという考え方でございます。現状の西枇杷島の児童数、今後の児童数を考慮して、西枇杷島地区は3園で対応できると考えおります。したがいまして、保育園を一つ増やすということではなく、幼稚園を廃止し保育園化していくというものです。

●荒川委員

今の西枇杷島第2幼稚園の場所を使うにしても使わないにしても、廃止するということでしょうか。

●林課長

幼稚園については1園にして、保育園を西枇杷島地区では2園体制にすることです。

●小川委員

資料4の左側一番下の表では、来年度の市立幼稚園の入園希望者が104名とあります。

●浅田課長

本年10月に入園の申し込みをいただいた方の数でございます。平成25年度の希望者が、それぞれ第1幼稚園が63名、第2幼稚園が41名で、合わせて104名ということです。

●小川委員

例年の傾向から見て、入園申込者数の63名と41名というのは予想された数字なのでしょうか。本年度の申込者数が少ないとか、また、本来であればもう少し、第2幼稚園も申込みがあるような感じはされなかったでしょうか。

●浅田課長

例年、第2幼稚園のほうが若干少ない状況です。今年度の募集の予定では第1幼稚園60名、第2幼稚園40名を目指していました。おおよそ、その数字に近いところがありました。定員を超えた場合は抽選ということも考えていましたが、数名の定員オーバーでありましたので、園長とも相談して、受け入れられるということで、抽選は実施せずに、申し込みを受け付けたという現状です。

●小川委員

幼稚園の申込者数は、予定されている数に近かったということですね。私どもがここで審議してきたのは、西枇杷島地区の乳幼児の方が、西枇杷島地区の保育園へ行きたいのになかなか行けないということから、幼稚園の保育園化を進めてきたわけですが、これまでいろいろな協議をしてきて思います。それで、幼稚園を存続するという理由はなにがあるのでしょうか。第1幼稚園を存続して、第2幼稚園のみを保育園にするということでなく、清須市全体を保育園にすることについての議論はどうなのでしょうか。例えば、これからもずっと幼稚園を一つ残して、西枇杷島地区の幼児が幼稚園・保育園の両方に行けるようにという方針なのか、それとも、第1幼稚園もそのうちには保育園化に流れていくのか、どんな考えなのでしょうか。

●林課長

これまで、幼稚園の保育園化の議論をする中で、西枇杷島第2幼稚園の保育園化について検討してきたところでございます。

西枇杷島第1幼稚園が約200名、西枇杷島第2幼稚園が110名弱の園児がいるということがあって、幼稚園のすべてをいきなり保育園にするということは、保護者の方に影響が大きいということがあったため、まずは第2幼稚園を保育園にして、一つの幼稚園で幼稚園ニーズを受けて、そういうことで保育園化を進めて保育ニーズに応えていこうというものです。まず第2幼稚園の保育園化を考え、さらに今後保育ニーズが増して、幼稚園でなくすべて保育園にという段階になったときには、またそのこともこの委員会で審議していただく必要があると考えています。

●小川委員

資料から見させていただき説明を受けまして、年々、他地区への保育園に通う児童の数が増えている気がしましたし、来年もその傾向で、107名の子どもが遠いところまで行くことが資料3からも分かりました。その状況が続くとともに考えますと将来のことまで触れさせて考えていく必要があるのではと思います。

●林課長

7月にこの委員会を開催させていただいた時に、年々、他地区への保育園に通

う児童数が増えてきているということで、24年度は79名の方が他地区に通つていて、25年度の見込みとしては、前回の委員会で提出した資料の中では95名ということ見込みを出しています。これについては、現在、入所申し込みを行っている中で、今回資料3の左下に書いてあるとおり、100名強の影響がでてくると考えております。

●荒川委員

今の資料4ですが、今年は西枇杷島第1幼稚園が63名、西枇杷島第2幼稚園が41名で、幼稚園入園希望者が来年だと100人位の見込みということだと思います。その方向で行くと、平成28年度も100人近く幼稚園に通いたい人が普通ならば数字として挙がってくると思いますが、第2幼稚園が無くなるからということで、数字がかなり低くなっているのは何故かなと思いました。それと、先ほど質問したときに「幼児数が減ってくるから幼稚園を一つ減らしても問題ないのではないか」ということを言われたと思うが、果たしてそうなのでしょうか。例えば、今、西枇杷島のJRの駅の近くに子どもが増えてきていることや古城小学校区の方も田畠が宅地に変わり、幼稚園に行きそうな子どもや、これから子を持つ家もたくさんあるように思います。この地区だと、インターネット上や色々な話を聞いている時に、幼稚園に入るから西枇杷島地区に来たという方もいるように思います。それから、第2幼稚園を普通に無くしたと考えた時に、定員70人では絶対満足できないと思います。現在、西枇杷島地区しか幼稚園がないのは合併前からですが、市になったからということで、例えば西枇杷島第1幼稚園に清洲東小学校区の方から何名も通ってきているし、車で通っている子もあります。そういう子達が、向こうの方、春日地区の方にいっぱい保育園がある中でどれか一つを幼稚園にしてもらえた通えるのにとか、他の私立の幼稚園に行っている清洲地区や新川地区の人は、こちらは保育園しかないので高いけど私立幼稚園へ行くかとか、私的契約児として保育園に通うとか、それしか選択肢がないことがあるのではないか。以前は幼稚園の送迎バスも西枇杷島地区しか走っていなかったので、幼稚園バスもないから通えないとか、通うための足がないのでということで、保育園も確かにニーズがあると思うのですが、資料3の案2で、ここで一気に第2幼稚園を廃止することを考えずに、どうにかして残すことを考えられないでしょうか。それとも、他地区に幼稚園を作ることも全く想定していないのは何故なのでしょう。

●加藤市長

幼稚園も保育園も必要だと思います。しかし、今、13園の保育園と2園の幼稚園が市内にある訳ですが、それは西枇杷島の時代に幼稚園があったということです。合併の時の一つの課題として、西枇杷島地区に偏在して公立幼稚園が2つあることがあります。他の地域はないので、いずれはすべての地区に幼稚

園と保育園両方をつくるのか、という意見もあったのですが、一定の財政力の中で保育園なり幼稚園を運営していかなければならないのです。今は保育ニーズが高くなっているのは、お母さん達が働きに行かれて、その間の預かってほしいという人、特に小さい子を預かってほしいというニーズが増えてきている訳です。先ほどの資料にもありましたとおり、西枇杷島地区の方が他地区の保育園に行き、他地区の方もまた他の保育園に行っているという現象がある訳で、やはりどちらのニーズが高いかと考えると保育園のニーズのほうが高い訳です。私の考えですが、保育園というのは公立で受け皿を作つていかなければならぬと思っております。幼稚園は私立もたくさんあります。現実的に他の地域の方はたくさん私立幼稚園に行ってみえるので、保育園に比べると受け皿はあります。ですから、家庭でみられる人は面倒みでもらう、どうしても教育をしたい人は私立の幼稚園を希望してもらうという選択ができると思っています。今の市の財政で、保育園でも耐震化をやっていかねばならないということで、朝日保育園の改修しているところですが、このことにも財政支出の必要が出てくる訳です。保育園全体を耐震化もやりながら効率的に運営してやっていかねばならないということで、第2幼稚園を保育園化するという判断をした訳です。

●荒川委員

愛知県内には公立幼稚園はかなり減ってきてはいるものの、結構まだ残っていると思います。園児数を見ていると、清須市内では第2幼稚園は第1幼稚園の半分100人位しかいないので、小さな園に思えますが、愛知県全体から考えると上から数えて何番目と大きいのではないでしょうか。100人超えるというのは結構大きな園になると思っています。県内で有数の大きな園を閉園するのはもったいない、と感じています。

●山田委員

幼稚園の方が、何故保育園化が困るのでしょうか。単純に家計を預かる主婦目線で行けば、月謝が高いからだと思います。保育園に入れることになると、私的契約児だと保育料が年少だと2万5千円と高くなり、幼稚園のプラスα1万5千円払わなければなりません。自分だったらそれが一番ひつかかります。これが同じ月謝で保育園になるのであれば反対はないと思います。その金額を捻出するのがきついので、幼稚園のままでいてほしいとの意見があるのではないかと思います。時間も長くみてもらえるし、その点では良いが、このご時勢で1万5千円上がるることは厳しいです。子どもの習い事も2つ3つ増やせるではないかとか考え方のみえると思います。月謝が少し改善されれば別だと思うが、13園全部ということでないと不平等になるのではないかと思うが、この時点で市としては、平成25年度入園される方が卒園すると同時に閉園させることは決定ですか、覆ることはあるのですか。

●加藤市長

そのことを含めて、ご協議していただいていると思っています。確かに保育料は高いが安い人もいます。所得に応じて、保育料が算定されるわけですが、保育料が高い人、低い人いろいろな人がいます。ただし、保育園の受け皿は行政しかないと思っています。

●荒川委員

第2幼稚園に行っていた100何人がそちらに移動してきたり一緒ではないのかなと思います。プール跡地に保育園を作ったら、何人位入れるのを想定しているのですか。

●林課長

第2幼稚園を保育園化した場合、定員150名程度と考えています。西枇杷島保育園が、現在の自園給食を給食センターからの外部搬入方式へ切り替えることにより、定員130名から20名増の定員150名と見込んでいます。第1幼稚園が270名の定員ですので、3園で対応できると考えています。

●荒川委員

第2幼稚園が保育園になったら、そこが200人以上の定員にならないのでしょうか。資料4では、第2幼稚園の定員が190人とありますが、それぐらいを見込んでいいのではないのでしょうか。第2幼稚園の定員が190人とあり、今100人ぐらいいて80人ぐらいプラスされ、さらに保育園の方で20人プラスになり100人ぐらい定員が増えるという考え方でよいのでしょうか。

●浅田課長

資料4の幼稚園の現状の数字をみるとクラス数が3歳児・4歳児・5歳児と2クラスずつあり、年少時については25人未満を定員と考え、最高で50人、4歳児・5歳児については35人未満を考え、定員いっぱい70人になり、合計190人になりますが、実際の園児数は10月1日現在で3歳児39人、4歳児44人、5歳児36人の合計119人です。この定数はクラス数に基準の人数をかけたものです。

●荒川委員

ということは、第2幼稚園は2クラス余っているから人数が増えることを、考えて、今より100人ぐらいプラスが可能ということでしょうか。今、第2幼稚園は119人しかいなくて、定員が190人、これから保育園にする時に西枇杷島以外に行っている107人をどのように対応するのですか。単純に70人増えて西枇杷島地区保育園が20人増えて90人ぐらい確保できるという考え方ですか。第2幼稚園を残さずに保育園1本にする時の人数の確保の仕方を教えて欲し

いと思っています。幼稚園に現在行っている方はそのままで100人残り、保育園として温水プール跡地に保育園を建てたので保育園に行きたい方はそのまま行ってくださいという話に何故ならないのかという説明が欲しいのですが。

●林課長

それは、影響を受ける107人が全部戻ってきた場合の受け皿として西枇杷地区ですべて入るかと言うご質問でしょうか。

●荒川委員

それも含めて、107人を温水プール跡地で受けますよとなった時、第2幼稚園もいま120人近いくて、これからも同じ様に運営していくとしたら100人位いるかもしれませんと考えられますので、第2幼稚園で100人、保育園で100人またそれ以上の人数をそれぞれやっていくという人数配分ではないのでしょうか。

●林課長

あくまでも保育園化というのは先ほど市長がご説明したように保育ニーズ、0歳から2歳児のお母さん方が働く環境を作つてあげなければならないということです。それは市として取り組まなければならぬということです。第2幼稚園のプールの跡地で150人は確保できます。さらに、西枇杷島保育園の改修工事をしたことによって、給食センターからの外部搬入方法によって20人さらにそこで増やすことができます。残りのお子さんについては、第1幼稚園へ移っていただき、西枇杷島地区3園で対応していけると考えております。

●荒川委員

今の計算だと第2幼稚園に行くはずだった100人はどこに行っているのでしょうか。

●林課長

第2幼稚園ではなくて、保育園に行かれる方もあるだろうと思います。公立幼稚園を希望された場合には第1幼稚園の方に行っていただくことも可能だらうと考えています。

●塚本委員

私は春日地区で、保育園しかない状態だったので幼稚園がどういうものかわからなかつたが、先ほど山田委員が言われたとおり、一番は保育料だと思います。幼稚園は、いい教育だとか言われていると思いますが、選択の一番は保育料だと思います。今まで公立幼稚園がそんなに安いのかということをこの委員会に出て初めて知りました。いい教育が1万円前後で受けられて恵まれた地域だったのだ

ろうと思います。私的契約になると2万円近く払うことになるので、春日地区のお母さんは頑張って内職したり、なんとかしながら保育園に預けています。保育園が結構高いと思いますが、だからといって保育園がすごく儲かっているとは思わないで、一人あたりの教育の値段は今の時代はそれ位かかるのだと私は思っています。

●原田委員

私も幼稚園を存続してとか保育園を増加してという相談をよく受けます。両方聞くと、深刻なのはどちらかと考えたとき、必要に迫られているのは受け皿のない方、選択肢のない方を助けてあげたいという気持ちになったので、今回ばかりは保育園化のほうに少し力が入っています。本当は中立でいたいのですが、幼稚園の方が相談に見えた時にも、あなたたちは恵まれていたという感謝だけはして欲しいと伝えました。幼稚園しか知らないくて、幼稚園がとても良かった、それは、分かります。恵まれていたし、西枇杷島町の何年も前に作られた幼稚園が、そこまでよく存続したと思います。今、この時代に、働かなければいけないから子どもを保育園に預けて働きたいという深刻な状況をお母さんから聞いたら、叶えてあげたい、子どもを守ってあげたい、お母さんを仕事に出させてあげたいという気持ちが正直強かったです。幼稚園の方は選択肢がないわけではないと思っています。保育園のお母さん方は、遠くまで行って兄弟ばらばらに預けたり、朝早くから夜遅くまで働いたりと頑張っているので、少しでも力になりたいと思います。幼稚園の方とお話した時には、自分の気持ちだけを推し進めているときにはいさめ、もうちょっと考えてみましょうと伝えています。ただ、今はこういう市のお願いを、やさしい気持ちで受けてあげてもらえないかな、と私はお願いしました。そして、保育園化された時に、幼稚園のお母さんが困ったら私は心のケアは必ず受けますので、そのときまた来てくださいと伝えたのは間違っていましたと思っています。譲り合い、困っている人に力を貸す気持ちを持ってほしい。幼稚園は驚くほど安いので、安くてありがたかったと気持ちを持ってほしい。そして、安心して子どもを預けられる場所を作りたい。本当は、二つ作るのが理想です。しかし、現実こんなに困っているときに、空きを作るほどの余裕はないと思っています。若いお母さん達は一生懸命働き、一生懸命子育てをしていますし、また、自分の能力を高める働き方もあるので、なんとか力を貸してあげたい。お母さんやお子さんを優しい気持ちで見守りたいと思うのです。皆さんの意見を中立の立場で意見を聞いた結果、保育園化に力が入ります。ただ納得してもらえるような方法にしていかないといけないと思っています。行政が一方的な言い方をすると犠牲的精神のように思えてしましますので、困っているお母さん達のお願いに対して気持ちよくこたえてほしいと思っています。

●建部委員長

事務局も皆さんのお意見を聞きながら、考え、できるだけ皆さんのお希望に近いよ

うにしていただけたらと思います。

●建部委員長

続きまして、議題(2)の「春日地区の保育園統廃合について」事務局からご説明をお願いします。

●伊藤副主幹

子育て支援課、伊藤副主幹から議題(2)下記の資料説明。

(2) 春日地区の保育園統廃合について

●建部委員長

ただいま、議題(2)の「春日地区の保育園統廃合について」事務局からご説明しましたが、ご意見、ご質問がありましたら、挙手をお願いします。

●荒川委員

廃園後、夢の森保育園はどうなるのでしょうか。

●林課長

現在は、統廃合として提案させていただいておりますので、廃園後については今後、検討していきます。

●谷委員

統廃合後の入所者数でネギヤ保育園は増築で、定員190名は分かりますが、資料5左側、2の保育所入所児童数の推移では、現在中之切保育園定員75名とありますが、資料5右側、3の統廃合後の入所可能数では、定員110名となっているのは何故でしょうか。

●林課長

中之切保育園は、現在、定員75名ですが、実際の入所可能入園時数は110名までです。

●荒川委員

夢の森保育園が廃園になるとネギヤ保育園に通園することになるが、遠くて通うことができなくなるのではないでしょか。

●林課長

夢の森保育園が廃園になるとネギヤ保育園に通園することになり、遠くなると思いますが、およそ1キロメートルの距離ですので、通園可能範囲と考えており、春日地区2園体制にするものです。

●建部委員長

以上で、本日の議事は全て終了いたしました。皆様方のご協力によりまして、会議を円滑に進めることができましたことに、お礼申し上げます。長時間に渡りまして、ご協議ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。これをもちまして、本日の次世代育成支援対策行動計画策定委員会を閉会いたします。皆様、ご苦労さまでした。

4 閉会

会 議 の 結 果	決議に付する議事なし
-----------	------------

上記のとおり会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成 24 年 12 月 21 日

委員 斎藤 太一 

平成 24 年 12 月 21 日

委員 塚本 まゆ 